

看護学生の臓器移植に関する意識調査

畠山義子* 小林真澄**

要旨

平成9年に臓器移植法が制定され、脳死者からの臓器提供及び臓器移植が受けられるようになり、以後、移植医療の進歩はめざましい。移植医療に携わることが予測される看護学生の臓器移植への意識調査を行った。以下のような結果が得られた。(有効回答=267)

1. 臓器移植への関心は高かったが、提供に関する承諾条件の認知は44.6%であった。臓器移植に関心を持つ学生群は持たない学生群に対し「提供する」意思が有意に高かった。2. カード持参する学生は83名(31.0%)であったが、意思が決まらず意思表示していない学生が23名いた。「何となく」カードを持ち、「理由なく」カードを持たないとする学生が多かった。3. 臓器移植に関心を持つ学生群は持たない学生群に対し「提供する」意思が有意に高かった。4. 自ら臓器移植を受けるかに対しては「その時になってみないと分からない」(56.9%)としながらも、受ける理由では、「生きたいから」、受けたくない理由では「他人との死との引き替えは嫌だからが多かった。5. 死生観との比較において、「心停止時、提供したい」「心停止時、提供したくない」に有意差が見られた。今後、「死生観」「死の概念」などの点からの分析が課題である。

看護学生は今後、移植医療に関わるだけでなく、ドナーやレシピエントとなることも考えられる。かれらの臓器移植に対する正しい知識と移植医療に対する意見を確立するとともに、臓器移植に対する理解と死生観の育成を図ることの必要性が示唆された。

キーワード：看護学生 意識調査 臓器移植 臓器提供意思表示カード 死生観

I. はじめに

平成9年7月に「臓器の移植に関する法律」(臓器移植法)が制定され、脳死者から臓器提供および臓器移植を受けることができるようになった。以後、移植医療の進展はめざましいものがある。平成10年に心臓と肝臓各1例の移植が始めて行われ、平成11年には肺移植が、平成12年には脾臓や小腸の移植が新たに行われるなど、従来の生体間や心停止下の移植に加え、脳死という新たな死の概念のもと、生体維持に必要な主要臓器の移植が増えている。平成17年7月までに36例の脳死下臓器提供がされ、総計140臓器が移植された。一方、主要臓器における待機患者登録人数は年々増え、平成17年8月1日現在で12,000人を上回る¹⁾。

2年毎、内閣府が実施する臓器移植に関する世

論調査²⁾によると「臓器移植に関心がある」は、平成16年10月調査では54.6%で、前回の調査(平成14年7月実施、55.9%)より低下している。臓器提供意思表示カード(以下、カード)の周知度は71.9%で、前回(68.9%)より微増しているものの、前々回(平成12年5月実施、81.1%)と比べると大きく下回る。カード所持率も前々回9.4%、前回9.0%、今回10.5%と伸び悩んでいる。脳死下での臓器移植に関しては、カードの所持が前提である。移植医療の進歩、臓器提供待機患者数の増加などを鑑みると、臓器移植推進のために臓器提供に対する周知・認識をさらに広め、カード所持の推進を図る必要がある。

今回、医療職に携わろうとする看護学生の臓器移植、および臓器提供の認識について調査する機

会を得た。その実態と、臓器移植の関心やカード所持、死生観との関連を検討したのでここに報告する。

Ⅱ. 方法

1. 調査対象：公立看護系短大に所属する1年生106名、2年生93名、3年生93名、合計292名。3年生は臨地実習10週間実施している。
2. 調査方法と時期：アンケート調査法。無記名・自記式法で、一斉に手渡し、後日回収ボックスに投函を依頼した。調査時期は平成16年7月。
3. 調査内容：臓器移植に関する項目（内閣府で実施する臓器移植に関する世論調査項目を参考に一部改変）と信頼性・妥当性の検証されている平井ら³⁾の開発した死生観尺度の項目のみ用い、2者択一法で調査した。
4. 集計処理と分析方法

回答は学年毎の単純集計を行い、 χ^2 検定（カイ二乗検定）は全体数で行った。

「臓器移植への関心」、「カード所持の有無」、「死生観」の3項目と、臓器移植の理解（移植法、承諾条件、組織移植）、臓器提供（脳死時、心停止時）、および臓器移植を受けることへの意思、の関連を明らかにするために χ^2 検定を行った。死生観は、「はい」の回答が半数以上・以下に2分し分析を行った。使用した統計ソフトはSPSS11.0J For windowsを用い、統計学的な有意水準は5%とした。

5. 倫理的配慮

学生に対し、研究目的、内容、方法、及びまとめは統計的処理を行いプライバシー及び人権が守られること、結果については一部講義で用い、関連する学会等で報告する旨を文章および口頭で説明した。また、調査への協力は自由意志であり、不参加でも不利益とならない旨を説明した。回収は、後日設置されたボックスへの投函とした。

Ⅲ. 結果

1. 対象の背景

有効回答は1学年90名（84.9%）、2学年93名（100%）、3学年84名（90.3%）で、合計267名（91.7%）を分析対象とした。年齢は、1学年は18～19歳が79名（87.8%）、2学年は18～19歳が59名（63.4%）、3学年は20～21歳が75名（89.3%）で大多数を占めた。24歳以上の学生は各学年共4～5名（4.3～6.0%）であった。男女比では、1年女子が87名（96.7%）、2年女子86名（92.5%）、3年女子77名（91.7%）で、女子が全体の93.6%を占めた。

2. 臓器移植への関心・認知度（表1）

臓器移植への関心があると回答した学生は、各学年とも9割を超え全学年では91.0%を占めた。また、「臓器提供2方法」、「承諾条件」、「組織移植」の認知について質問した結果、「承諾条件」の認知度は全体で44.6%と低かったが、「臓器提供2方法」は74.2%、「組織移植」は79.0%が知っていたと回答していた。「組織移植」に関する認知度以外は、学年を追う毎に僅かずつ増加がみられた。

3. カード所持に関して

カードの所持は、1学年27名（30.0%）、2学年31名（33.3%）、3学年25名（29.8%）と学年間に大きな差はなく、全体で83名（31.0%）が所持していた。

(1) カード所持に関して（表2-1）

持ったきっかけの全体における一位は「提供したいから」31名（37.3%）、二位は「何となく」22名（26.5%）の順であったが、2学年においては「何となく」が一位を占めた。入手場所は4人に1人が「コンビニエンスストア」で入手していた。カードへの意思記入の有無の一位は「脳死・心臓停止の両方に記入」37名（44.6%）で、次に「何も記入していない」30名（36.1%）であった。2学年においては「何も記入していない」が半数以上いた。

(2) カードに意思記入していない理由（表2-2）

カード所持している83人中、意思記入していない学生は30名おり、その理由の一位は「自分の意思が決まらないから」で23名（76.7%）だった。次に、「親が反対しているから」5名（16.7%）であった。

(3) カード所持していない理由（表2-3）

カード所持しない理由を181名が回答し、一番多かった回答は「特にない」53名（29.3%）であった。以下、「入手方法がわからないから」42名（23.2%）、「臓器提供に抵抗があるから」39名（21.5%）、「カードのことを良く知らなかったから」24名（13.3%）「家族が反対するから」23名（12.7%）の順であった。学年別の順位では2・3学年は同順位であったが、1学年は「入手方法がわからないから」が一位で以後の順位も他の学年と異なっていた。

4. 臓器提供の意思（表3）

脳死時の提供では、「提供したい」154名（63.1%）で、「したくない」66名（27.0%）、「わからない」46名（18.9%）の順であった。心停止時の提供では、「提供したい」131名（49.3%）で、「したくない」87名（32.7%）、「わからない」48名（18.0%）の順であった。学年間の比較では、2学年の「したくない」と回答した割合は大きく、2学年の心停止時の提供は「したくない」が「提供したい」を上回った。

5. 自己の移植に関して（表4-1・表4-2・表4-3）

「移植が必要になった時受けるか」の質問に、各学年とも「その時になってみないと分からない」がトップで、全体の56.9%を占めた。次は「誰の臓器であっても移植を希望する」（31.2%）であった。学年別で見ると、2学年は「その時になってみないと分からない」が他の学年より10%高く、「誰の臓器でも移植希望」は10%低かった。移植を受けたい理由について、「生きたいから」と答えた学生が194名中151名（77.8%）にのぼった。移植を受けたくない理由については40名が回答し「他人の死と引き替えだから」15名（37.5%）、「そ

こまでしなくても良いと思う」が9名（22.5%）おり上位を占めた。

6. 臓器移植に対する関心（表5）

臓器移植に「関心がある」学生は243人（91.0%）、「関心がない」学生は24人（9.0%）であった。さらに、臓器移植への関心の有無と、臓器移植の理解（移植法、承諾条件、組織移植）、臓器提供の意思（脳死時と心停止時）、臓器提供を受けることへの意思の3項目6内容との関連を、 χ^2 検定を用いて分析した結果、関心と脳死時の臓器提供意思、および心停止時の臓器提供意思との間に $p < 0.05$ で有意差が認められた

7. カード所持の有無（表6）

カードを「所持する」学生は83人（31.0%）、「所持しない」学生は184人（69.0%）であった。さらに、カード所持の有無と、臓器移植の理解（移植法、承諾条件、組織移植）、臓器提供の意思（脳死時と心停止時）、臓器提供を受けることへの意思の3項目6内容との関連を、 χ^2 検定を用いて分析した結果、カード所持の有無と提供2方法の認知、承諾条件の認知、脳死時の臓器提供意思および心停止時の臓器提供の意思との間に $p < 0.05$ で有意差が認められた。カード所持の有無と臓器移植への関心の検定は標本数が少なく実施できなかった。

8. 死生観（表7）

死生観は“はい”の回答、半数以上・以下に2分し分析を行った。死生観の確立が高いといえる「平均より上」の学生は79名（29.5%）、「平均より下」の学生は185名（70.1%）であった。死生観の確立と、臓器移植の関心、臓器移植の理解（移植法、承諾条件、組織移植）、カード所持、臓器提供の意思（脳死時と心停止時）、および臓器移植を受けることへの意思の5項目8内容との関連を χ^2 検定を用いて分析した結果、確立と心停止時の臓器提供の意思との間に $p < 0.05$ で有意差が認められた。

Ⅳ. 考察

1. 臓器移植に関する関心と理解

「臓器移植に関心がある」と答えた学生数は学年間では大きな差はなく、全体で91.0%に達した。関心について学年間の差が見られなかったことは、看護学生としての授業の学びの他にテレビCMやドラマ、小説などで知る機会からと考える。城川ら⁴⁾は、1999年2月に実施された臓器移植法案成立後の第1事例の認知度を調査し、その結果97.5%の人が知っておりメディアの取り上げが大きく寄与していることを明らかにした。学生も、そうしたメディアからの情報や、時々話題となる臓器移植を取り上げたテレビドラマや小説から知り得て関心を持ったものといえる。また、臓器移植に関心を持つ学生群は提供する意思が有意に高く(表5)、臓器移植に関して動機づけられていた。

しかし、臓器提供の2方法や承諾条件、及び組織移植などの臓器移植に関する具体的内容の認知度は低く、関心が高い割には臓器移植に関しての理解は低いことがわかった。臓器提供2方法や承諾条件の認知度は学年を追う毎に僅かに増加しているが、今後、移植医療に関わる可能性がある看護学生として、臓器移植に対する理解は関心と同様に深める必要があり、関心の高いこの期に理解をすすめることが有効と考える。

2. カード所持に関して

カード所持する学生は、学年毎で25~31名おり全体で83名、所持率は31.1%であった。2年ごとに内閣府で行う世論調査の結果と比較すると、所持率は高い。

カードを持ったきっかけは、「提供したいから」と「何となく」が回答のほとんどを占めた。また、意思表示カードの記載には、「脳死・心停止の両方に記入」と「何も記載していない」が上位にあり、「何も記載してない」理由として「自分の意志が定まらない」が多かった。このことから、『はっきりとした提供意思を持ちカードを所持』、『「何となく」カードを所持』、および『意思が決まらない為、意思表示は未記入』などカード所持

する学生の特徴が明らかになった。『はっきりとした提供意思を持ちカードを所持』は、カード所持の有無と臓器提供との間に有意差があったことから裏付けられた(表6)。

しかし、カードを持つ学生の1/4は「何となく」所持し、また、意思の未記入者は1/3を超えている。カードを持つこと、また、カードにその意思表示をすることは、死生観を中心とした自己の移植に対する意思が問われることである。カードを前に臓器移植に対する考えをすすめ、意思決定しておくことが求められる。

カードに意思記入することの重要性はいうまでもない。脳死下で臓器提供する場合、本人の書面による意思表示と、家族の承諾の両方がなければ脳死下での提供は不可能になる。また、この時書面、意思表示カードに些細な記入ミスがあっても「カード記載不備」にて提供に結びつかなくなる。こうした点から、意思表示をしておくこと、また記入ミス無くすることは重要である。

カード所持してない理由に、「特にない」が一番多く181名中53名(29.3%)を占めた。臓器移植やカードについて関心の無さを伺わせる回答の反面、「臓器移植に抵抗がある」や「家族が反対するから」など、臓器移植について家族と話し合ったり考えた結果からの回答が62名(34.2%)あった。また、「カードについて知らなかったから」「入手方法が分からなかったから」など、入手方法を含めたカードについての理解をすすめることで、カード所持につながるとと思われる回答が合わせて66名(36.5%)あり、カード所持してない理由の傾向が伺えた。無関心であったりカード入手方法が分からないとする学生に対しては、その理解を深めることの必要性が示唆された。

カード入手場所は「コンビニエンスストア」が一番多く、「病院」「保健所」が続いた。カードについて知らない、入手方法が分からないとする学生も多いことから、カードを公共施設の窓口に置く、また、免許証や健康保険証などの交付場所にカード・シールなどの配布・設置を行うなどして、カードやその入手方法についての周知を広く働きかけるなど、身近な場所でのアピールと入手方法が

カード普及の要因となるといえる。

臓器提供意志は高く（表3）また、カード所持していないものの「脳死時・心停止時、臓器提供したい」学生も多くいる（表6）ことから、多くの看護学生はカードについての理解を深め入手方法を知ること、カード所持者が増えてくると考えられた。

カードを所持するにもかかわらず「提供の2方法」や、心停止後の提供は家族承諾のみで行える「承諾条件」について知らない学生がおり、この点からもカードについての正しい理解をすすめる必要性がある。

3. 自らの臓器移植について

移植が必要になったとき受けるかに対し、「その時になってみないと分からない」と148名（56.9%）が回答した。また、移植を受けたい理由を質問したところ「生きたいから」と151名（77.8%）が回答した。このことは、多くの学生が自らの移植についてあまり考えていないが、生への執着は強いことが伺える。一方、移植を受けたくない理由については40名が答え、「他人の死とのひきかえはいやだから」（15名）「そこまでしなくても良い」（9名）が理由の上位を占めた。

臓器提供、特に脳死下における提供では、「ドナーの死」と「レシピエントの生」を考えることになる。カードを持ち意思表示するということは、まさに、自分の「生」と「死」についての考えを突きつけられることである。自らの移植に対し、40名の学生は「移植を受けたくない」と答えた。しかし、多くの学生は「そのときにならないとわからない」と答えている。看護学生は入学以来、人の「生」と「死」に対し学ぶ機会が多い。しかし、それらは言葉の概念として学び、自分に置き換えて考える機会は少ないといえる。

死に対するイメージは、新見⁵⁾が行った「看護学生の死生観」分析の中で、各学年とも低い平均点でマイナスのイメージを持っていた。また、「恐ろしい」「怖い」等の感情表現がされ、特に、1年・2年次生の中に恐ろしさや不快さを表現するものが多かったことが報告されている。臓器移

植を考えると「死」や「死ぬ瞬間」などに関連づけられ恐怖心を抱くと考えられる。その結果、考えない、考えたくないというような意識が強く影響し、自らの臓器移植に対しても「その時になってみないと分からない」思いにつながったと考えられる。こうした学生に対しては、積極的に「死」や「生」を考える機会を持たせるような努力（配慮）をすることが大切である。

一般的に、日本人は「死について」「宗教について」積極的に考える人は少なく、「死」に対する教育も十分とはいえない。死の教育の重要性について道廣⁶⁾は、若者の自殺者が多いことへの対策として、死に対する考えを持つ、裏を返せば生き方に対する考えを持つことの必要性を強調し、小学生の時期から「死」を考える教育が必要であるという。このことは、現代の若者に対し死生観を持つことの重要性を指摘しているといえる。

看護学生は、臨床の場において患者の死に遭遇することが多い。身近に関わった患者の死を通して、その人の生を振り返る機会がある。新見⁷⁾は、「死」に関する否定的な認識や考えない学生、また、死を自分のこととして考えず一般論でとどまっている学生に対して、積極的に死や生きること、苦痛を体験することを考える機会を与えることが必要であり、患者の実存的苦痛にも対応できる看護師の育成につながるといっている。臨床実習の場において教員は、看護学生に対し積極的に他者の死や生を考え、また自分のこととして考え深める関わりから死生観を育み、さらに他者の死や生に関する痛みについて深く考えることのできる看護師の育成に努めることが要求された。

完成された「倫理観」（死生観・宗教観）などは、簡単に変わるものではない。しかし、移植医療の進歩に伴う臓器移植の話聞く機会を持ち、臓器移植やカードについての理解を深め、改めて自分の考えを確立させておくことが重要である。それは、結果的に移植につながることを願うものではあるが、移植に対する反対意思も含めてである。特に看護学生は、今後移植医療に関わる機会がある。学生である今、移植医療について学び、

人として「生きる」意味や「死」についての考えを深め、臓器移植に関して確立した意見を持つことが望ましく、その結果、自己の死生観、看護観のもと充実した看護が展開できると考える。

今回の調査結果で、学年間の比較も試みた。2学年と他の学年との間に多少の差異がみられたが、変数が少なく統計学的処理からの裏付けは証明できなかった。

今回の調査で死生観の確立が平均より低いとされるものに、「心停止時、腎臓・眼球など提供したい」とする学生が多く、死生観と臓器提供意思との間に有意差がみられた。死生観と臓器移植の関心やカード所持は関連しないとする調査結果⁸⁾もあることから、今後、更に学生の死生観そのものの分析を深めることや、死の概念からの分析が課題となる。

V. 結論

公立看護系短大生に対し、臓器移植に関する講義の前に意識調査を行った。結果は以下の如く、要約される。

1. 臓器移植への関心は、91.7%の学生が「ある」と回答したが、提供に関する承諾条件の認知は44.6%であった。臓器移植に関心を持つ学生群は、持たない学生群に対し「提供する」意思が有意に高かった ($p < 0.000$)。
2. カード所持率は31.1%であった。カードを持つきっかけは「提供したいから」と「なんとなく」が上位を占めた。「脳死」「心臓停止」の両方に意思の記入、が多かったが「自分の意思が決まらない」為として未記入も多かった。カード持参してない理由は「特にない」「臓器提供に抵抗がある」「家族が反対するから」「カードのことを(入手方法)知らなかったから」に特徴づけられた。
3. 自ら臓器移植を受けるかに対しては「その時になってみないと分からない」(56.9%)としながらも、受ける理由は「生きたいから」(194名中151名)、受けたくない理由は「他人との死との引き替えは嫌だから(40名中15名)」が多かった。

4. 死生観と心停止時の提供意思との間に、有意差が見られた ($p < 0.025$)。「死生観」「死の概念」などの点からの分析が課題である。

看護学生は今後、移植医療に関わるだけでなくドナーやレシピエントとなる可能性がある。臓器移植に対する正しい知識を持ち移植医療に対する意見の確立が望まれた。

関わる教員として看護学生に対し、臓器移植に対する理解と死生観の育成を図ることの必要性が示唆された。死生観の育成に関しては臨床実習の場での体験を通し、意図的に関わることが重要である。

VI. 終わりに

時々、移植医療・臓器移植に関連したテレビドラマや小説が話題となる。そして、その都度世論の関心の高まりを実感するが、ドラマや小説の忘却とともにその関心も低下している。移植医療や臓器移植については、常に考え続けていかなければならない。看護学生には臓器移植に関する学びを深める機会を持ち、臨床実習の中で死生観を養う関わりを深めていきたい。

移植医療の進歩と臓器移植に対する世論の理解と関心の深まり、そして、臓器提供待機患者数の減少していくことを願ってやまない。

調査にご協力下さいました学生の皆様に、感謝致します。

調査結果の一部は、平成16年12月17日実施の特別講義Ⅲ「臓器移植の現状と課題」で発表した。

引用・参考文献

- 1) (社) 日本臓器移植ネットワークHP <http://www.jotuw.or.jp/> 2005年8月16日
- 2) 内閣府による臓器移植に関する世論調査(1998年-2000年-2002年) <http://www6.plala.or.jp/brainx/cao-survey.htm> 2005年8月16日
- 3) 平井啓、坂口幸弘、安部幸志他：死生観に関する研究 - 死生観尺度の構成と信頼性・妥当性の検証 -、

- 死の臨床、23 (1) : 71-76、2000
- 4) 城川美佳、長谷川友紀、雨宮浩：臓器移植に関する意識調査－臓器移植法施行後 第1事例による影響－、日本公衆衛生誌、48 (7) : 521-533、2001
 - 5) 新見明子：看護学生の死生観－Purpose in Life Test分析より－、川崎医療短期大学紀要22 : 27、2002
 - 6) 道廣睦子、岡須美江、安東勝弘他：日本と韓国の看護学生の死と生に対する比較～生と死をみつめる教育の観点から～、看護科学会誌、23 (4) : 208、2003
 - 7) 前掲書5) 28-30、2002
 - 8) 平松喜美子、吉野明子、平井由香他：臓器移植に関する看護学生と家族との死生観の相違、日本看護科学会誌、23 (4) : 589、2003
 - 9) 白浜貴恵子：看護学生の死の概念と臓器提供の意思、生命倫理、12 (1) : 147-153、2002
 - 10) 木内哲也：本邦における肝移植医療の現状と課題、現代医学、51 (1) : 35-43、
 - 11) 近藤裕子、高橋由紀、南妙子：看護学生の脳死と臓器移植に関する意識調査 臓器提供への認識、死の臨床、22 (2) : 250、1999
 - 12) 高橋由紀、南妙子、近藤美月他：脳死と臓器移植に関する意識調査 1991年看護短大生と1999年看護大学生の意識の比較から、香川医科大学看護学雑誌、4 (1) : 9-16、2000
 - 13) 平松喜美子、大谷昭子、松尾ミヨ子他：鳥取県内における医学生と看護学生の移植医療についての認識：アンケート調査の結果解析、米子医誌、J Yonago Med Ass 54 : 137-144、2003

表1 臓器移植への関心・認知度

(単位 人, () 内%)

	1 学年 n=90	2 学年 n=93	3 学年 n=84	合計 n=267
< 関 心 >				
あり	82(91.9)	84(90.3)	77(91.7)	243(91.0)
<臓器提供 2 方法>				
知っていた	58(64.4)	73(78.5)	67(79.8)	198(74.2)
<脳死下、心停止下の承諾条件>				
知っていた	38(42.2)	41(44.1)	40(47.6)	119(44.6)
<組織移植について>				
知っていた	64(71.1)	79(84.9)	68(81.0)	211(79.0)

表2-1 カード所持に関して

(単位 人, () 内%)

	1学年 n=90	2 学年 n=93	3 学年 n=84	合計 n=267
<カード>				
あり	27(30.0)	31(33.3)	25(29.8)	83(31.0)
<持ったきっかけ>				
何となく	5(18.5)	11(35.5)	6(24.0)	22(26.5)
提供したいから	13(48.1)	7(22.6)	11(44.0)	31(37.3)
提供したくないから	0	1(3.2)	0	1(1.2)
マスコミの影響で	0	1(3.2)	0	1(1.2)
講習会等で	1(3.7)	0	3(12.0)	4(4.8)
勧誘	2(7.4)	0	0	2(2.4)
その他	6(22.2)	11(35.5)	5(20.0)	22(26.5)
<カード入手場所>				
病院・保健所	3(11.1)	5(16.1)	5(20.0)	13(15.7)
市町村の窓口	2(7.4)	0	3(12.0)	5(6.0)
コンビニエンスストア	7(25.9)	7(22.6)	7(28.0)	21(25.3)
金融機関・郵便局	1(3.7)	1(3.2)	2(8.0)	4(4.8)
その他	14(51.9)	18(58.1)	8(32.0)	40(48.2)
<意思表示カードに意思記入の有無>				
「脳死」のみ記入	4(14.8)	2(6.5)	1(4.0)	7(8.4)
「心臓停止」のみ記入	2(7.4)	2(6.5)	1(4.0)	5(6.0)
「脳死」「心臓停止」の両方記入	13(48.1)	9(29.0)	15(60.0)	37(44.6)
「臓器を提供しない」の記入	2(7.4)	2(6.5)	0	4(4.8)
何も記入していない	6(22.2)	16(51.6)	8(32.0)	30(36.1)

表 2－2 意志記入していない理由 (単位 人, () 内%)

	1 学年 n= 6	2 学年 n=16	3 学年 n= 8	合計 n=30
<意思表示カードに記入してない理由>				
自分の意思が決まらないから	5(83.3)	11(68.8)	7(87.5)	23(76.7)
家族が反対しているから	0	4(25.0)	1(12.5)	5(16.7)
臓器提供に抵抗感があるから	0	1(6.2)	0	1(3.3)
臓器提供についてよく知らないから	1(16.7)	0	0	1(3.3)
記入するのが面倒だから	0	0	0	0(0.0)

表 2－3 カード所持していない理由 (単位 人, () 内%)

	1 学年 n=62	2 学年 n=60	3 学年 n=95	合計 n=181
<カードを持参しない理由>				
カードのことをよく知らなかったから	12(19.4)	4(6.7)	8(13.6)	24(13.3)
入手方法が分からなかったから	16(25.8)	13(21.7)	13(22.0)	42(23.2)
家族が反対するから	5(8.1)	9(15.0)	9(15.3)	23(12.7)
臓器提供に抵抗があるから	15(24.2)	12(20.0)	12(20.3)	39(21.5)
特にな	14(22.6)	22(36.7)	17(28.8)	53(29.3)

表 3 臓器提供意志 (単位 人, () 内%)

	1 学年 n=90	2 学年 n=93	3 学年 n=83	合計 n=266
<脳死時の提供意思>				
提供したい	53(58.9)	55(59.1)	46(55.4)	154(63.1)
したくない	17(18.9)	30(32.3)	19(22.9)	66(27.0)
わからない	20(22.2)	8(8.6)	18(21.7)	46(18.9)
<心停止時の提供意思>				
提供したい	46(51.1)	39(41.9)	46(55.4)	131(49.3)
したくない	25(27.8)	44(47.3)	18(21.7)	87(32.7)
わからない	19(21.1)	10(10.8)	19(22.9)	48(18.0)

表 4－1 移植必要時の考え (単位 人, ()内%)

	1 学年 n=86	2 学年 n=90	3 学年 n=84	合計 n=260
<移植が必要となったとき受けるか>				
誰の臓器であっても移植を希望する	31(36.0)	23(25.6)	27(32.1)	81(31.2)
親しい人の臓器の場合なら移植を希望する	5(5.8)	6(6.7)	6(7.1)	17(6.5)
絶対に移植は断る	6(7.0)	3(3.3)	5(6.0)	14(5.4)
その時になってみないとわからない	44(51.2)	58(64.4)	46(54.8)	148(56.9)

表 4－2 移植を受けたい理由

(単位 人, ()内%)

	1 学年 n =59	2 学年 n =72	3 学年 n =63	合計 n =194
＜移植を受けたい理由＞				
生きたいから	44(74.6)	58(80.6)	49(77.8)	151(77.8)
死が恐ろしいから	4(6.8)	5(6.9)	3(4.8)	12(6.2)
Q O L 向上のため	2(3.4)	2(2.8)	4(6.3)	8(4.1)
その他	9(15.3)	7(9.7)	7(11.1)	23(11.9)

表 4－3 移植を受けたくない理由

(単位 人, ()内%)

	1 学年 n =10	2 学年 n =18	3 学年 n =12	合計 n =40
＜移植を受けたくない理由＞				
他人との死との引き換えはいやだから	3(30.0)	9(50.0)	3(25.0)	15(37.5)
経済的負担だから	2(20.0)	1(5.6)	1(8.3)	4(10.0)
運命だから	1(10.0)	2(11.1)	2(16.7)	5(12.5)
安楽に死にたいと思うから	1(10.0)	3(16.7)	2(16.7)	6(15.0)
そこまでしなくても良いと思うから	3(30.0)	3(16.7)	3(25.0)	9(22.5)
他人の臓器はいらないから	0	0	1(8.3)	1(2.5)

表 5 臓器移植に対する関心の特徴

(単位 人, ()内%)

	関心がある	関心がない	有意差 (p 値)
＜脳死時の臓器提供＞			
提供したい	149(74.5)	5(25.0)	0.000
提供したくない	51(22.5)	15(75.0)	
合計	200(100.0)	20(100.0)	

＜心停止時の臓器提供＞			
提供したい	126(64.3)	4(19.0)	0.000
提供したくない	70(35.7)	17(81.0)	
合計	196(100.0)	21(100.0)	

表 6 カード所持に関する特徴

		(単位 人, ()内%)		
		持っている	持っていない	有意差(p 値)
<提供の2方法>				
知っていた		72(86.7)	126(68.5)	0.001
知らなかった		11(13.3)	58(31.5)	
合計		83(100.0)	184(100.0)	

<承諾条件>				
知っていた		45(54.2)	74(40.2)	0.023
知らなかった		38(45.8)	110(59.8)	
合計		83(100.0)	184(100.0)	

<脳死時の臓器提供>				
したい		62(83.8)	92(63.0)	0.001
したくない		12(16.2)	54(37.0)	
合計		74(100.0)	146(100.0)	

<心停止時の臓器提供>				
したい		52(70.3)	78(54.5)	0.017
したくない		22(29.7)	65(45.5)	
合計		74(100.0)	143(100.0)	

表 7 死生観に関する特徴

(単位 人, ()内%)			
	平均より下	平均より上	有意差(p 値)
<心停止時の臓器提供>			
したい	82(55.0)	47(70.1)	0.025
したくない	67(45.0)	20(29.9)	
合計	149(100.0)	67(100.0)	

Survey on the awareness of organ donation and transplantation among nursing students

HATAKEYAMA Yoshiko KOBAYASHI Masumi

ABSTRACT

Since the establishment of the 1997 Organ Transplantation Law in Japan, which permits organ donation and transplantation from brain dead donors, the field of transplantation has rapidly improved. In the present study, a survey was conducted on the awareness of organ donation and transplantation among nursing students, who were expected to be involved in transplantation medicine. The results revealed the following 4 points.

(n = 267) 1) Although the level of concern for organ donation and transplantation was high, only 44.6% of nursing students recognized the conditions of approval regarding donations. 2) The intention to “donate” was significantly higher among students who were concerned about organ donation and transplantation than those who were indifferent to the issue. 3) Although 83 students carried an organ donor card (31%), 23 of them did not indicate their intentions as a result of indecisiveness. There were many students both who carried a donation card and who did not carry a card; their individuals in both groups did not indicate a specific reason for carrying or not carrying a card. 4) Regarding a question of whether the students would receive an organ transplant if necessary, 56.9% of students responded, “I do not know unless I am actually in such a situation.” The main reason for being willing to receive a transplant was “I want to live”, while the main reason for not wanting a transplant was “I do not want to live in exchange for another person’s death”. 5) A comparison of nurses’ “views of life and death” showed significant differences between “I want to donate after a cardiac arrest” and “I do not want to donate after a cardiac arrest”. However, further analysis of nurses’ “views of life and death” and “the concept of death” may be necessary.

Nursing students are not only expected to be involved in transplantation medicine, but also have the possibility to become donors or recipients in future organ transplantations. The result of the survey suggests that there is a necessity for nursing student to gain knowledge of organ transplantation and to form their own views and or opinions of life and death.

Keywords: nursing students; survey of awareness; organ transplantation; organ donor card; views of life and death